

## ■前回の検討委員会の意見と対応方針

### 第 2 回検討委員会での意見と対応方針

開催日時： 令和 6 年 11 月 20 日(水)10 時～

主な意見： 下表の通り

観点	主な意見	対応方針
アンケート調査に係る観点	市民アンケート、沿線住民アンケートは、世帯の回収数だけでなく個人の回収票数も合わせて整理すべきである。	個人の回収票数を整理した。
	公共交通利用者アンケートは、交通手段毎の配布状況、回収状況を整理すべきである。	交通手段毎に配布していないため、回収状況を交通手段毎に整理する。
	特定の交通手段で回答数が少ない場合、偏りが出ないように交通手段毎の分析とする。	
	年齢層や平日・休日、定期利用／定期利用外など、分類ごとに詳細な分析が必要である。詳細に分析することで、課題や対応方策が具体的になってくる。	アンケート調査結果の詳細な分析を進める。分析に必要なデータは、交通事業者等に提供を依頼する。
都市交通課題の整理に係る観点	課題整理において、現況、社会動向、取組みが混在しているため、課題として読み取りにくい。事実→問題点→課題の順に整理すると分かりやすい。	都市交通課題設定のプロセスを示しアンケート結果やデータとの整合をとり各課題の説明文を追加した。
	レベル感の違う課題は、目的と手段という視点で、階層構造にしても良いのではないか。	都市交通課題を「渋滞の解消と安全・円滑な移動環境」と設定し道路空間は移動環境に含むこととした。
	現況と社会動向は、分けて記載した方が本市の現況が鮮明になる。社会動向は、現行計画の施策状況から見た課題と社会的動向に関するまとめに入れても良いと思う。	
	現況では自転車や徒歩の通行環境への不満がある。空間再編の視点も検討すべきである。	
計画の構成(素案)に係る観点	国の動向や、関連計画における豊橋市都市交通に関する記述は、本計画の前提となるため、前段で整理されているべき。	国の動向は I 章で整理した。
	現行計画の総括では、今後やるべきことではなく、今回達成できたこと、次に目標達成できなかった要因を記載すべきではないか。もしくは、総括というタイトルを評価の総括とすれば、記載内容でも読み取れる。	総括は評価の総括と修正した。
	公共交通を維持する上での一番の課題は運転手の確保である。現状整理において、運転手不足の状況を整理すべきである。	II 章の豊橋市を取り巻く状況で路線バスの運転士の人数や走行キロの推移を示した。

観点	主な意見	対応方針
計画の構成（素案）に係る観点	計画の構成における課題の整理は、もう少しボリュームをもつて丁寧に整理する。	都市交通課題設定の根拠となるⅡ章の豊橋市を取り巻く状況に公共交通の利用圏域、路線バスの運転士の人数や運行本数の推移を追加した。都市交通課題設定のプロセスで基本理念や基本方針との関係を示した。
	交通課題の整理から基本理念・基本方針につながるストーリーが分かるように構成するべき。	
	豊橋市で実現性のある好事例を参考にしながら議論したい。	次年度の施策検討の際に好事例を参考とする。
	基本理念の考え方について、交通弱者が取り残されないよう、「誰一人取り残さない」ということが分かる表現があると良い。	基本理念の考え方に記載している、「多様な交通手段を誰もが使えること」という文章で読み取れる。
	基本方針3 みんなで支え育む持続可能な交通づくりについて、支える、育むという視点も重要だが、「みんなで考える」ことも重要であり、対話する機会が大切である。支える側、支えられる側、という立場を分けず、課題を自分事として捉え、同じ目線でみんなが考えることができるように表現を検討してほしい。	育むにはみんなで考えることも含むものとする。
	基本方針3では、“共創”によって交通体系の維持につなげられることが望ましい。ハード・ソフト施策は基本方針1、2で受け、それ以外は基本方針3に入るといい。	意見のとおり、基本方針1、2はハード・ソフト施策をイメージし基本方針3は共創による交通体系の維持をイメージしている。
	昨今、「環境」「健康」は非常に重要なテーマであり、交通の役割も非常に大きい。本編に入れてほしい。	目標3-2に「環境負荷軽減、健康増進に寄与する交通行動を促し持続可能な交通環境を実現する」と設定した。